



すえちゃん

しりょうかんだより



どうたくん

No.10



「夏休みこども月間」夏休みは資料館へいこう

きょうどしりょうかんだ
郷土資料館では、7月31日(土)～8月31日(火)に

「夏休みこども月間」を開催します。(月曜休み)

- ・資料館内をまわりながら歴史体験ができる。ポイントラリー
- ・古代の装飾品を自分でつくっちゃおう！ まがたま講座
- ・何分で火がおこせるか！？ 火おこし大会
- ・市内の遺跡や古墳に行ってみよう！ 史跡めぐり
- ・古代のなべでごはんをたいてみよう！ 古代食を食べてみよう！

など盛りだくさんの内容です。ぜひ、資料館にあそびに来てください。

申し込みが必要なものがあります。詳しくは「広報とよた7月15日号」が資料館まで問い合わせください。



とよたのれきし(近世1)

(江戸時代：1603年～1867年 伊保藩)

徳川家康が天下を統一し、江戸時代になると現在の豊田市域は大名や旗本の領地、^{はたもと}猿投神社や^{さなげじん}隣松寺など寺社の領地、幕府の領地に分かれましました。大名・旗本は幕府の家来ですが、大名は1万石以上の領地を与えられた人で、藩をつくり政治を行っていました。

藩には^{ころもはん}挙母藩・^{いぼはん}伊保藩がありました。尾張藩・刈谷藩・岡崎藩の領地となった村もありました。江戸時代の藩は、幕府の命令で領主(殿様)が替わります(領地がえ)。市域の北部にあった伊保藩は慶長5年(1600)に^{にほうじつく}丹羽氏次が一万石の大名として領主となり誕生しました。このとき伊保藩領となったのは、上伊保・下伊保・伊保堂・^{とのがいと}殿貝津・八草・大畑・^{ささばら}広見・^{たもみ}篠原・^{しごう}田朮・^{かめくび}四郷・^{こしど}龜首・^{しだれ}花本・^{かのう}荒井・越戸・枝下・加納など22ヶ村でした。丹羽氏は陣屋を建て、町並みを整えました。その後、寛永15年(1638)に丹羽氏は^{みの}美濃国恵那郡岩村へ領地がえとなり、伊保藩は廃止され幕府の領地となりました。その後、天和元年(1681)に本多氏が新しい領主となって伊保藩が再びできました。本多氏は、永福寺を建て、道を広げ、溝を整備するなど、城下町の繁栄につとめました。伊保の町は^{いいたかいどう}飯田街道沿いの町として栄えたと伝えられています。



伊保藩主・本多氏が寄進した永福寺の雲版(市指定文化財)



本多氏が建てた永福寺(保見町)

おかしのあそび —おてだま・おはじき—

おてだまは、もともとは「イシナゴ」「イシナドリ」などとよばれました。あそび方は、あらかじめ下に小石をばらまいておき、石を一つ空中になげ上げ、それがおちてくるまでにばらまかれている小石をひろいあつめて、落ちてくる小石をうけとるものです。これをくりかえして、一番はやくぜんぶの小石をひろった人が勝ちというあそびです。そののち、布のふくろに小石や草の実や小豆を入れた今のおてだまに似たものをつかうようになりました。江戸時代には、ふくろは縮緬ちりめんなどのたいへんきれいな布でつくられ、とくに女の子のあそびになったそうです。

小さな玉をゆびではじいてあそぶおはじきも、はじめは石をつかっていたため「イシハジキ」というよび方がありました。そののち「キサゴ」という小さな巻き貝をつかうようになったため、「キサゴハジキ」というよび方もされました。今はガラスやプラスチックで作ったおはじきがよく売られています。

おてだまもおはじきもむかしからあるあそびで、住んでいるところやその時代によっていろんなあそび方がされています。おてだまはお店でかうこともできますが、布と小豆があれば、自分でつくすることもできます。作り方やあそび方は、まわりの大人の人やおじいさんおばあさんにきいてみましょう。

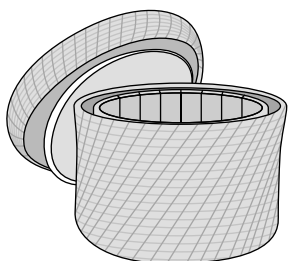
民 具

M I N G U

いずみ(ふご)

いずみは、わらでできたふたつきのいれものです。今は炊飯器すいはんきでごはんを炊くこと・蒸すこと・保温ほおんすることができますが、昔、ごはんは釜かまで炊き、じゅうぶん蒸らされたあと、飯櫃めしびつに入れて保温しました。飯櫃はヒノキでできていて保温にすぐれています。冬にはいずみの中に飯櫃めしびつをいれて、よりいっそうごはんがさめないようにくふうしました。また、仕事がいそがしい時にあかちゃんをいずみにいれて、1人であそぶ時にもつかわれたそうです。

郷土資料館
の民俗資料館
で見学が
できるので
みなさん
ぜひ見に
きて
ください。



しりょうかんだより No.10

平成16年6月23日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。